

厚生労働大臣
舩添要一 殿

学校法人 金沢医科大学
理事長 小田島 肅

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記のことについて、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	49	人
--------	----	---

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照 (様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	295人	2.0人	297.0人	看護業務補助者	120人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	0人	8.0人	理学療法士	18人	臨床検査技師	55人
薬剤師	34人	0人	34.0人	作業療法士	9人	衛生検査技師	0人
保健師	2人	0人	2.0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	12人	0人	12.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	550人	16.6人	566.6人	臨床工学技師	9人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	9人	1.0人	10.0人	栄養士	5人	その他の技術員	15人
歯科衛生士	6人	0人	6.0人	歯科技工士	3人	事務職員	92人
管理栄養士	12人	0人	12.0人	診療放射線技師	31人	その他の職員	62人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	693.4人	5.5人	698.9人
1日当たり平均外来患者数	1,086.4人	51.2人	1,137.6人
1日当たり平均調剤数	1,202.5		剤

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・人工中耳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・スキンДФाइバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・成長障害のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・生体部分肺移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・門脈圧充進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫、乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・臍腫瘍に対する腹腔鏡補助下臍切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・抗癌剤感受性試験(CD-DST法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・抹消血管細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・抹消血単核球移植による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・副甲状腺内活性化型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・無	19人
・顎顔面補綴	有・無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	人
・歯周組織再生誘導法	有・無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	人
・レーザー応用による齲蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・無	1人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした位決定法	有・無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜又は内痔核手術(PPH)	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	人
強度変調放射線治療	有・無	人
胎児心超音波検査	有・無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・無	人
インプラント義歯	有・無	19人
顎顔面補綴	有・無	人
人工中耳	有・無	人
歯周組織再生誘導法	有・無	人
抗がん剤感受性試験	有・無	人
腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
生体部分肺移植術	有・無	人
活性化血小板の検出	有・無	人
抹消血管細胞による血管再生治療	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	人
超音波骨折治療法	有・無	人
眼底三次元画像解析	有・無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテララーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。
3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	39 人	・モヤモヤ病（ウイリス動脈輪閉塞症）	11 人
・多発性硬化症	40 人	・ウェグナー肉芽腫症	2 人
・重症筋無力症	25 人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	9 人
・全身性エリテマトーデス	99 人	・多系統萎縮症	21 人
・スモン	0 人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	2 人
・再生不良性貧血	14 人	・膿疱性乾癬	2 人
・サルコイドーシス	26 人	・広範脊柱管狭窄症	2 人
・筋萎縮性側索硬化症	14 人	・原発性胆汁性肝硬変	24 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	61 人	・重症急性膵炎	1 人
・特発性血小板減少性紫斑病	26 人	・特発性大腿骨頭壊死症	45 人
・結節性動脈周囲炎	12 人	・混合性結合組織病	9 人
・潰瘍性大腸炎	51 人	・原発性免疫不全症候群	1 人
・大動脈炎症候群	18 人	・特発性間質性肺炎	3 人
・ビュルガー病	16 人	・網膜色素変性症	19 人
・天疱瘡	2 人	・プリオン病	1 人
・脊髄小脳変性症	35 人	・原発性肺高血圧症	1 人
・クローン病	26 人	・神経繊維腫症	3 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・悪性関節リウマチ	12 人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	0 人
・パーキンソン病関連疾患	74 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧型）	3 人
・アミロイドーシス	3 人	・ライソゾーム病（ファブリー[Fabry]病含む）	0 人
・後縦靭帯骨化症	67 人	・副腎白質ジストロフィー	2 人
・ハンチントン病	2 人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1 か月に 7 回程度 (臨床－病理部門：6 回 臨床－検査部門：1 回)	
剖 検 の 状 況	剖検症例数 79 例	剖検率 21.7 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託先
アンジオテンシンⅡ 1型受容体阻害薬のインハースアゴニスト活性について	赤澤 純代	生活習慣病センター	1,300	補 文部科学省
世界中のどこからでも容易に依頼可能な有機酸代謝異常症の出生前診断法の検討	井上 義人	人類遺伝学研究部門 生化	800	補 文部科学省
母体血中有核赤血球のハイスループット分離精製方法の検証	高林 晴夫	人類遺伝学研究部門 臨床	2,800	委 (独)科学技術振興機構・産学共同シーズイノベーション化事業・顕在化ステージ 文部科学省
疑ウエルナー症候群の病態解明	石垣 靖人	RIセンター	1,800	補 文部科学省
ヘルスケアにつなげる光触媒型活性酸素パッチの開発	石垣 靖人	RIセンター	900	補 文部科学省
炎症性大腸発がんモデルマウスを用いた共役リノレン酸の発がん阻止効果に関する研究	安井 由美子	ハイテクリサーチセンター	1,370	補 文部科学省
流行するフラビウイルスの急所は何か: NS4a蛋白及びゲノム3'UTRの役割	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	1,800	補 文部科学省
シ波による眼球への影響評価に関する研究	佐々木 一之	環境原性視覚病態研究部門	30,000	委 (財)テレコム先端技術研究支援センター 委託事業(総務省)
携帯電話システムの医学教育への応用	黒田 尚宏	医学教育学	800	補 文部科学省
医学教育における情報ネットワークを利用した学外臨床教育支援システムの開発	堀 有行	医学教育学	2,700	補 文部科学省
培養骨格筋細胞を用いた筋再生に関する研究	下川 隆	分子細胞形態科学 (解剖学)	2,000	補 文部科学省
パラコート急性毒性機構に関わるNADH-キノンオキシリダクターゼmの研究	島田 ひろき	分子細胞形態科学 (解剖学)	1,200	補 文部科学省
舌解毒酵素陽性病変のメチル化異常と舌前がん病変としての意義に関する研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学I)	2,700	補 文部科学省
ヒトがん発生に係わる環境要因及び感受性要因に関する研究	甲野 裕之	腫瘍病理学(病理学I)	1,700	補 厚生労働省
個体レベルでの発がん予知と予防に関する基盤的研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学I)	2,300	補 厚生労働省
疾患モデルを用いた発がんの分子機構及び感受性要因の解明とその臨床応用	杉江 茂幸	腫瘍病理学(病理学I)	4,000	補 厚生労働省
がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学I)	3,500	補 厚生労働省
神経細胞におけるアミロイドβ蛋白標的因子の固定と細胞障害機序の解明	佐藤 勝明	病理病態学(病理学II)	500	補 文部科学省
肺癌進展に関わる癌細胞・宿主相互応答遺伝子発現解析パネルの開発と応用	上田 善道	病理病態学(病理学II)	1,100	補 文部科学省
特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	松本 忠美	運動機能病態学(整形外科)	600	補 厚生労働省
破骨細胞を介した変形性顎関節症の病態機構の解明	金山 景錫	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,000	補 文部科学省
顎関節症の病因解明の試み; 滑液中の蛋白修飾糖類の解析による糖鎖異常の検討	高橋 基浩	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,900	補 文部科学省
顎関節疾患のMR画像における滲出液像の本態解明と診断的意義の確立	瀬上 夏樹	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,400	補 文部科学省
老人性痴呆症・アルツハイマー病の予防および治療を目的とした中枢機能賦活口腔スプリントの開発	吉村 弘	顎口腔機能病態学(口腔科学)	3,552	補 厚生労働省
FDG PETによる肺癌分子標的治療の関連遺伝子発現の評価と治療効果予測	東 光太郎	放射線診断治療学(放射線医学)	800	補 文部科学省
担癌動物に対する集学的治療後の治療効果判定における高分解能MRIの検討	的場 宗孝	放射線診断治療学(放射線医学)	500	補 文部科学省

小計 26件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託先
拡散強調画像とダイナミックMRシアログラフィーによるシェーゲン症候群の病態解析	利波 久雄	放射線診断治療学(放射線医学)	600	補 文部科学省
画像診断に基づく消化器がん、肺がん、乳がんのclinical stagingの確立と治療法選択に関する研究	東 光太郎	放射線診断治療学(放射線医学)	1,000	補 厚生労働省
血管系腫瘍(莓状血管腫・血管肉腫)の発病進展に関する血管新生因子及び遺伝子変異	森田 礼時	機能再建外科学(形成外科学)	1,400	補 文部科学省
がん温熱療法の分子機構の解明と効果的な臨床応用への探索	中島 日出夫	腫瘍治療学	1,000	補 (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成
外来がん化学療法への漢方の導入とその延命効果に関する研究	元雄 良治	腫瘍治療学	500	補 (財)日本漢方医学研究所研究助成金
酔眼における塩酸ゲムシタピン耐性克服法の開発	島崎 猛夫	腫瘍治療学	800	補 (財)脾臓病研究財団助成金
加齢に伴う免疫力低下による疾患の発生機序の解明と臨床応用に関する研究(自然免疫系の低下による老化関連疾患発症機序の解明と免疫系の賦活化に	中島 日出夫	腫瘍治療学	2,000	委 厚生労働省
血管新生・糖尿病血管症罹患感受性を制御する選択的mRNAスプライシングの新機構	米倉 秀人	ゲノム医科学(生化学)	1,200	補 文部科学省
放射線誘発DNA損傷に対する、G1期特異的な新規修復経路の全容解明	岩淵 邦芳	ゲノム医科学(生化学)	2,000	補 文部科学省
動脈硬化予防・治療創薬へ向けての平滑筋細胞内Caイオンと一酸化窒素の機能解析	西尾 眞友	生体情報薬理学(薬理学)	2,200	補 文部科学省
分岐理論に基づく心室筋自動能発生機序の解析とバイオベースメーカーシステム設計	倉田 康孝	生理機能制御学(生理学)	1,200	補 文部科学省
循環ショックにおける肝臓の微小血管圧の測定法の確立	芝本 利重	生理機能制御学(生理学)	2,700	補 文部科学省
磁気刺激による次世代ECT(電撃けいれん)療法のための基礎研究	加藤 伸郎	生理機能制御学(生理学)	400	補 (財)磁気健康科学研究振興財団研究助成
循環器疾患におけるリアルタイム三次元心臓超音波及び組織トプラー心臓超音波による病態の解析:PET(Positron Emission Tomography)	野村 祐介	循環制御学(循環器内科学)	1,740	補 (財)福田記念医療技術振興財団研究助成金
末梢気道上皮に特異的発現を示すRab38Gタンパク質の間質性肺疾患への関与の解明	長内 和弘	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	700	補 文部科学省
ヒト肺癌におけるアグアホリン水チャンネルの発現亢進メカニズム	杉田 真	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,100	補 文部科学省
経気道的肺胞マクロファージ移植法の確立	前田 寿美子	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,000	補 文部科学省
仮想および極細気管支鏡による肺野微小肺癌・前癌病変の遺伝子診断と発癌過程解析	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	500	補 文部科学省
肺胞水分蛋白再吸収機序の活性化による肺傷害治療法の開発	佐久間 勉	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,100	補 文部科学省
がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,000	補 厚生労働省
ガレクチン9抗体を利用した多発性硬化症モデル動物におけるアレルギー反応機序の解析	松井 真	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	1,300	補 文部科学省
自己免疫性脳脊髄炎における新規治療薬の開発	中西 恵美	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	1,600	補 文部科学省
大脳白質病変形成の分子機序解明	松井 大	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	700	補 文部科学省
神経疾患の診断・治療・要望に関する包括的臨床研究	松井 真	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	550	委 厚生労働省
免疫性神経疾患に関する調査研究	松井 真	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	900	補 厚生労働省
ヒト髄膜腫に対するゴナトロピン放出ホルモン受容体を標的とした治療の基礎的研究	立花 修	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	1,300	補 文部科学省
前立腺癌の放射線療法による細胞死の機序の解明	川村 研二	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	1,100	補 文部科学省
尿路結石症におけるAnnexinsの発現と機能解析の研究	宮澤 克人	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	500	補 文部科学省

小計 28件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託先
抗老化遺伝子SIRT1の機能解明とその成果の糖尿病性腎症に対する応用	古家 大祐	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	1,400	補 文部科学省
糖尿病性腎症の寛解を目指したチーム医療による集約的治療	古家 大祐	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	3,000	補 厚生労働省
新規抗癌剤開発のためのヒットドラフト解析	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	1,600	補 文部科学省
新規リマチ関節炎抑制因子FRPのシグナル伝達と免疫システムに対する作用の解析	田中 真生	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	2,100	補 文部科学省
シェーグレン症候群末梢血および唾液腺上皮細胞における遺伝子発現のDNAチップ研究	小川 法良	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	1,100	補 文部科学省
自己免疫性リンパ球増殖性多臓器疾患—新しい疾患単位の可能性	正木 康史	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	1,200	補 文部科学省
シェーグレン症候群の国際診断基準の作成	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	11,246	補 アメリカ国立衛生研究所(NIH)研究助成
EBV関連悪性腫瘍に対する生物学的療法の開発に向けて(対象者;董 凌莉 大学院生)	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	1,800	補 (財)上原記念生命科学財団来日研究生助成金
HAM発症関連遺伝子作用機構の解析と無症候性感染者における発症リスク評価の試み	齊藤 峰輝	生体感染防御学(微生物学・医動物学)	1,800	補 文部科学省
HTLV細胞白血病ウイルス関連脊髄症(HTLV-1 associated myelopathy:HAM)感受性遺伝子の網羅	齊藤 峰輝	生体感染防御学(微生物学・医動物学)	500	補 (財)日本脳神経財団研究助成
免疫性神経疾患に関する調査研究	大原 義朗	生体感染防御学(微生物学・医動物学)	900	補 厚生労働省
HTLV-Iプロテアーゼ阻害剤によるHAM治療法の開発ならびにHAM発症予防に関する研究	齊藤 峰輝	生体感染防御学(微生物学・医動物学)	2,000	補 厚生労働省
日本人健常男性における飲酒と喫煙の血圧、腎機能に与える影響	山田 裕一	社会環境保健医学(衛生学)	600	補 文部科学省
各種循環器疾患危険因子の長期変化に関わる栄養学的要因	三浦 克之	健康増進予防医学(公衆衛生学)	8,900	補 文部科学省
タイ王国汚染地域におけるカドミウム暴露と動脈硬化に関する研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	7,000	補 文部科学省
ダイオキシン胎内暴露の脳神経発達に及ぼす影響—大脳辺縁系を中心に—	西条 旨子	健康増進予防医学(公衆衛生学)	2,000	補 文部科学省
職業・生活習慣要因と長期循環器疾患発症に関する大規模職域コホート研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	4,000	補 (公)日本動脈硬化予防研究基金
重金属等による健康影響に関する総合研究(カドミウム汚染地域住民の追跡調査報告(梯川流域))	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,640	委 (独)環境再生保全機構研究事業(環境省委託事業費)
若い女性の食生活はこのままで良いのか?次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討	三浦 克之	健康増進予防医学(公衆衛生学)	2,000	補 厚生労働省
勤労者の健康づくりのための給食を活用した集団及びハイリスク者への対策に関する研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	2,000	補 厚生労働省
疾病予防サーベイスに係わるエビデンス構築のための大規模コホート共同研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	5,500	補 厚生労働省
卵巣機能におけるG-CSF、IL-6などサイトカインの作用解明と臨床応用について	牧野田 知	生殖周産期医学(産科婦人科学)	900	補 文部科学省
先進的胎児治療におけるインフォームド・コンセント	境原 三津夫	生殖周産期医学(産科婦人科学)	900	補 文部科学省
精神的ストレスの単球・マクロファージを介する急性冠症候群発症への関与	岩井 邦充	高齢医学(老年病学)	1,500	補 文部科学省
遺伝子多型検索による高血圧個別化診療の確立に関する研究	森本 茂人	高齢医学(老年病学)	1,200	補 厚生労働省
超音波装置を用いた超低出生体重児に対するカテーテルコイル塞栓術開発の研究	小林 あずさ	発生発達医学(小児科学)	900	補 文部科学省
水痘—帯状疱疹ウイルス感染における糖タンパクによる免疫修飾能の検討	佐藤 仁志	発生発達医学(小児科学)	1,700	補 文部科学省
排便運動における骨盤神経叢直腸枝の働きに関する実験的研究	河野 美幸	臓器機能再建学(小児外科学)	1,800	補 文部科学省

小計 28件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託先
ドーパミンD2遺伝子多型と非定型抗精神病薬による治療予測	廣保 究	精神神経科学(神経精神医学)	2,400	補 文部科学省
てんかん精神病の発現機序の研究	窪田 孝	精神神経科学(神経精神医学)	800	補 文部科学省
近赤外線酸素モニターによるCOMT多型と前頭葉機能の関連-ADHDでの比較-	榎戸 英佐子	精神神経科学(神経精神医学)	2,300	補 文部科学省
fMRIによるてんかん患者の記憶機能の優位半球側方性に関する研究	地引 逸亀	精神神経科学(神経精神医学)	900	補 文部科学省
脳内微小透析法を用いたクロサピリン誘発性増強現象での家兔脳内グルタミン、ドーパミン、セロトニン濃度の変化	石川 暁	精神神経科学(神経精神医学)	400	補 (公)松原三郎記念事業松原記念奨励賞
正常および敗血症ラットの微小腸間膜動脈運動に及ぼす鎮静薬の影響	関 純彦	侵襲制御学(麻酔学)	2,600	補 文部科学省
防己黄耆湯のメタボリックシンドロームに対する効果の解析	山川 淳一	総合内科学(総合診療科)	1,200	補 文部科学省
心筋内アディポネクチンによる心筋再生機構と治療応用	神田 享勉	総合内科学(総合診療科)	800	補 文部科学省
防己黄耆湯のメタボリックシンドロームに対する効果判定と有効成分の解析	守屋 純二	総合内科学(総合診療科)	500	補 日本漢方生薬製剤協会研究助成金
慢性疲労症候群の日内リズム障害に対する漢方薬の有効性に関する基礎的・臨床的解析	高橋 孝	総合内科学(総合診療科)	500	補 (財)日本漢方医学研究所研究助成金
Caspase-1により切断されたLyGDIによる転移抑制機構の解析	前田 雅代	生命科学科目(自然科学)	1,700	補 文部科学省

小計 11件

計 93件

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名(発行年月)	題名	発表者名(著者名)	所属部門
心臓 (2006.7)	個別化医療とファーマコゲノミクス	梶波康二	循環器内科
European Journal of Nuclear Medicine and Molecular Imaging(2006.8)	Quantitation of cardiac sympathetic innervation in rabbits using 11C-hydroxyephedrine PET:relation to 123 IMIBG uptake	Yusuke Nomura	循環器内科
日呼吸会誌 (2006.4)	わが国における呼吸器内科医師の実態に関する調査報告	梅 博久	呼吸器内科
Cancer Immunol. Immunother. (2007.2)	Melanocyte differentiation antigen RA B38/NY-MEL-1 induces frequent antibody responses exclusively in melanoma patients	K.Osanai	呼吸器内科
ALCOHOLISM (2007.1)	Effect of the inducer of interleukin-6(ME3738)on rat liver treated with ethanol	A.Fukumura	消化器内科
ALCOHOLISM (2007.1)	Effect of chronic dietary ethanol consumption on colonic cancer in rats induced by 1,1-D-imethylhydrazine	N.Hayashi	消化器内科
J. Gastroenterol. Hepatol. (2006.5)	Effect of chronic dietary ethanol in the promotion of N-nitrosomethylbenzylamine-induced esophageal carcinogenesis in rats	A.Fukumura	消化器内科
J. Gastroenterol. Hepatol. (2006.5)	Marked pneumoperitoneum 3 weeks after percutaneous endoscopic gastrostomy	H.Kawahara	消化器内科
金沢医科大学雑誌 (2006.12)	肝細胞癌を発生した非アルコール性脂肪肝炎(NASH)モデルマウス肝における酸化ストレスと抗酸化酵素の発現	山田真善	消化器内科
American Journal of Nephrology (2006.7)	Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and PMMA) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS	I.Ishikawa	腎臓内科
Blood (2006.8)	Detection of serum hepcidin in renal failure and inflammation by using ProteinChip System.	N.Tomosugi	腎臓内科
Internal Medicine (2007.1)	Effect of sevelamer hydrochloride on markers of bone turnover in Japanese dialysis patients with low bioactive PTH levels	H.Yokoyama	腎臓内科
Nephron. Physiology (2006.4)	Proteomic analysis of rat plasma by SELDI-TOF-MS under the condition of prevention of progressive adriamycin nephropathy using oral adsorbent	I.Ishikawa	腎臓内科
金沢医科大学雑誌 (2006.6)	2型糖尿病患者における頸動脈硬化進展の要因に関する研究:内臓脂肪蓄積に伴う代謝異常との関連	小西一典	内分泌・代謝科
治療学 (2006.8)	アルドステロンははたして善玉か	木越俊和	内分泌・代謝科
Current Therapy (2006.11)	糖尿病性合併症-新たなる治療戦略の可能性- 糖尿病腎症とPKC	古家大祐	内分泌・代謝科
Bio Clinica (2006.12)	GLP-1の生理作用と病態 膝外作用	西澤 誠	内分泌・代謝科
Endocrine Journal (2007.2)	Insulin responses to selective arterial calcium infusion under hyperinsulinemic euglycemic glucose clamps: Case studies in adult nesidioblastosis and childhood insulinoma.	Nakagawa A	内分泌・代謝科
医学のあゆみ (2007.3)	糖尿病腎症研究の最近の進歩-寛解をめざした治療とあらたな腎症治療薬	古家大祐	内分泌・代謝科
Neurology (2006.7)	Varicose veins associated with CADASIL result from a novel mutation in the Notch3 gene.	M.Matsui	神経内科
Hypertension Research (2006.12)	Tilting-induced decrease in systolic blood pressure in bedridden hypertensive elderly inpatients:effects of azelnidipine	S.Morimoto	高齢医学科
Hypertension Research (2006.9)	Angiotensin I-converting enzyme inhibitor improves reactive hyperemia in elderly hypertensives with arteriosclerosis obliterans	M.Okuro	高齢医学科
Medical Practice (2007.2)	ヒトメタニューモウイルス感染症の高齢者集団発生	森本茂人	高齢医学科
FEMS Immunol Med Microbiol(2007.2)	Vasculitis induced by immunization with Bacillus Calmette-Guerin followed by atypical mycobacterium antigen:a new mouse model for Kawasaki disease	中村常之	小児科
Journal of Medical Virology(2006.6)	A natural inter-genotypic(2b/1b)recombinant of hepatitis C virus in the Philippines	山村淳一	小児科
腎と透析 (2007.1)	血中濃度を指標としたミゾリピン投与法の工夫	藤木琢磨	小児科
学校メンタルヘルス (2006.12)	AD/HDをもつ子どもの教育的ニーズと支援のあり方に関する研究	榎戸英佐子	精神神経科
金沢医科大学雑誌 (2006.12)	非定型抗精神病薬オランザピンとアリピプラゾールの急性投与による家兎海馬における興奮性シナプス伝達およびドーパミン、セロトニン濃度に及ぼす	川村友美	精神神経科
金沢医科大学雑誌 (2006.6)	クロザピン誘発性興奮性シナプス伝達増強現象における家兎脳内ドーパミン濃度の増加	石川 暁	精神神経科
心身医学 (2006.10)	神経衰弱、慢性疲労症候群(CFS)、うつ病の三者間における概念と診断-3症例の検討を通して-	榎戸英佐子	精神神経科

小計 30件

雑誌名(発行年月)	題 名	発表者名 (著者名)	所属部門
精神科 (2006.8)	精神科外来診療における防風通聖散(TJ-62)の使用経験-TJ-62の抗肥満効果を中心に-	鴨田佐知子	精神神経科
てんかん研究 (2006.4)	最近の自教室におけるてんかんの診療と研究から	地引逸亀	精神神経科
北陸神経精神医学会誌	右前頭部髄膜腫摘出後に作話とせん妄を呈した1例	川村友美	精神神経科
臨床精神医学 (2006.7)	青年期に至るまでImaginary Companionが存続した2例-その臨床精神医学的特徴について	中川東夫	精神神経科
臨床精神医学 (2006.9)	電気けいれん療法が著効したステロイド精神病の1例	廣保 究	精神神経科
金沢医科大学雑誌 (2006.10)	FDG集積度、HRCT所見、および血清CEA値による肺腺癌(3cm以下)の術後再発予測	高橋知子	放射線科
金沢医科大学雑誌 (2006.6)	Tumor angiogenesis in lung adenocarcinomas : Correlation with FDG uptake and prognosis	東 光太郎	放射線科
小児科臨床 (2006.7)	急性巣状細菌性腎炎の画像診断	的場宗孝	放射線科
臨床放射線 (2006.12)	慢性肝疾患の腹部造影CTにおける高濃度造影剤生食フラッシュの有用性に関する検討 体重60kg以上で高容量製剤使用群との比較検討	的場宗孝	放射線科
金沢医科大学雑誌 (2006.10)	指尖血流脈波のゆらぎ解析による交感神経活動の評価とその応用	清澤 旬	胸部心臓血管外科
静脈学 (2007.3)	伏在静脈瘤における高周波焼灼術とストリッピング術における短期成績の比較検討	小畑貴司	胸部心臓血管外科
Surg Today (2006.4)	Fluorodeoxyglucose uptake correlates with the growth pattern of small peripheral pulmonary adenocarcinoma	佐川元保	呼吸器外科
金沢医科大学雑誌 (2006.12)	アノキシメタン誘発マウス大腸発癌における柑橘類化合物の発癌抑制効果の研究	林 圭	一般・消化器外科
日外感染症会誌 (2006.6)	大腸穿孔に起因したSIRS症例に対するPMX-DHPの有用性と限界	斎藤人志	一般・消化器外科
Int Orthop (2006.5)	The relationship between stem subsidence and improvement in the radiolucency in polished tapered stems	兼氏 歩	整形外科
Rheumatology (Oxford) (2006.4)	Oxidative stress by glutathione depletion induces osteonecrosis in rats	市堰 徹	整形外科
Spine (2006.6)	Expression of ADAMTS-4 (aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation	波多野栄重	整形外科
新薬と臨床 (2006.6)	分層採皮創に対するハイドロゲル型創傷被覆材(ビューゲル®)とポリウレタンフィルム材(カテリーブ®)の併用効果,	山元康徳	形成外科
形成外科 (2006.8)	乳幼児熱傷の治療の基本戦略 一創管理と成長に伴う再建治療一	山元康徳	形成外科
熱傷 (2006.12)	II度熱傷創に対するカルボキシメチルセルロースナトリウム(アクアセル®)の臨床効果	岸邊美幸	形成外科
金沢医科大学雑誌 (2006.12)	ヒアルロン酸およびコラーゲン注入後の皮膚組織反応の検討,	安田廣生	形成外科
日小外会誌 (2006.4)	Clinical Defecation Function of Transanal Endorectal Pull-Through for Hirschsprung's Disease:Comparison With the Open Procedure(Z-Shaped Anastomosis)	Miyuki Kohno	小児外科
Journal of Pediatric Surgery (2006.4)	Sexual problems in male patients older than 20 years with anorectal malformations	Kunio Konuma	小児外科
小児外科 (2006.7)	胆道閉鎖症肝門部郭清と肝門部空調吻合-胆管走行に基づく胆道閉鎖症の肝門部郭清	増山宏明	小児外科
Am J Ophthalmol (2006.4)	Risk Factors for five-Year Incident Age-Related Macular Degeneration : The Reykjavik Eye Study	H.Sasaki	眼科
BBRC (2006.5)	Differential analysis of D-β-Asp-Containing Proteins Found in Normal and Infrared Irradiated Rabbit Lens	M.Kojima	眼科
Bioelectromagnetics (2006.5)	Computational Verification of Anesthesia Effect on Temperature Variations in Rabbit Eye Exposed to 2.45 GHz Microwave Energy	M.Kojima	眼科
EMC (2006.11)	Temperature Elevation in the of Japanese Meale and Female Models for Plane Wave Exposures	M.Kojima	眼科
IEICE (2006.9)	Temperature Elevation in Rabbit Eye Irradiated by 2.45 GHz Exposure Systems	M.Kojima	眼科
Jan J Ophthalmol (2007.1)	Efficacy of α-Lipoic Acid Against Diabetic Cataract in Rat	M.Kojima	眼科
Journal of Latex CLASS FILES (2007.3)	Development of a 2.45-GHz Local Exposure System for In Vivo Study on Ocular Effects	M.Kojima	眼科
Ophthalmology (2006.4)	Prevalence and Risk Factors for Cornea Guttata in the Reykjavik Eye Study	H.Sasaki	眼科
あたらしい眼科 (2006.10)	モキシフロキサシン点眼薬の家兎眼内移行動態 一房水内最高濃度値(AQCmax)の測定一	福田正道	眼科
あたらしい眼科 (2006.6)	新規ニューキノロン系抗菌点眼薬トシル酸トスフロキサシン点眼液のウサギ眼内動態	福田正道	眼科

雑誌名(発行年月)	題 名	発表者名 (著者名)	所属部門
Auris Nasus Larynx (2006.5)	Difference of pharyngeal morphology and mechanical property between OSAHS patients and normal subjects	友田幸一	耳鼻咽喉・頭頸科
日本鼻科学会誌 (2006.6)	立体モデルとナビゲーションシステムを使用した内視鏡下鼻内手術における教育方法とその評価	村田英之	耳鼻咽喉・頭頸科
日本耳鼻咽喉科学会 会報(2006.7)	耳鼻咽喉科疾患治療の最前線 ナビゲーションシステムの耳鼻咽喉科手術への応用「鼻・副鼻腔領域の疾患を中心に」	友田幸一	耳鼻咽喉・頭頸科
耳鼻咽喉科展望 (2006.9)	ナビゲーションシステムを利用した内視鏡視野と画像位置との誤差測定	村田英之	耳鼻咽喉・頭頸科
皮膚の科学 (2006.12)	Trichophyton tonsurans感染症の3例—ブラシ検査結果の判定法とその問題点. 皮膚の科学白癬 皮膚糸状菌症	田邊 洋	皮膚科
J. Med. Microbiol. (2006.10)	PCR fingerprinting of Trichophyton mentagrophytes var. interdigitale using polymorphic subrepeat loci in the rDNA nontranscribed spacer	T. Mochizuki	皮膚科
Int. Immunol. (2006.12)	Differential induction of Th1-prone immunity by human dendritic cells activated with Sporothrix schenckii of cutaneous and visceral origins to determine their different virulence	M. Kawasaki	皮膚科
J. Dermatol. (2006.4)	Sporothrix schenckii Type 3D (mtDNA-RFLP): Report of an osteoarticular case.	M. Kawasaki	皮膚科
自治医科大学紀要29. (2006.12)	自治医科大学附属大宮医療センター皮膚科における5年間の白癬菌相とPCR-RFLP法による非定型分離白癬菌株の同定について	望月 隆	皮膚科
金沢医科大学雑誌 (2006.12)	黄体化未破裂卵胞(LUF)に対する排卵誘発補助薬としてのG-CSFの有用性に関する研究	広崎奈津子	産科婦人科
金沢医科大学雑誌 (2006.12)	胎児肺成熟度判定におけるMRIの有用性に関する研究	篠倉千早	産科婦人科
Journal of International Medical Research(2006.5)	Angiotensin-II receptor antagonist alleviates non-alcoholic fatty liver in kka y obese mice with type2 diabetes.	高橋 孝	総合診療科
Journal of International Medical Research(2006.5)	Traditional chinese medicine and kampo: a review from the distant past for the future.	高橋 孝	総合診療科
金沢医科大学雑誌 (2006.12)	メタボリックシンドロームを背景とするウイルス性心筋炎におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の心筋保護作用の解析-心筋内アディポネクチン発現	三枝誠一郎	総合診療科
金沢医科大学雑誌 (2006.12)	慢性疲労症候群(Chronic fatigue syndrome)のマウスモデル作製と漢方治療有用性の検討	守屋純二	総合診療科
Pathology. (2006.12)	High level of tumour protein p53-induced nuclear protein 1 (TP53INP1) expression in anaplastic carcinoma of the thyroid	元雄良治	腫瘍治療学
Zhong Xi Yi Jie He Xue Bao(2006.7)	Effects of Chinese herbal medicines on spontaneous chronic pancreatitis in rats and the pathological relationships between formulas and syndromes	元雄良治	腫瘍治療学
日東洋医誌 (2006.7)	伝統医学のグローバル診療ガイドラインは可能か?	元雄良治	腫瘍治療学
医のあゆみ (2006.11)	癌における性差:臨床腫瘍学における性差の配慮	元雄良治	腫瘍治療学
日東洋医誌 (2006.9)	冷感、異常知覚に牛車腎気丸が有効であった結節性多発性血管炎の1例	元雄良治	腫瘍治療学
石川県理学療法学会 誌	人工股関節全置換術の術前・術後における股関節可動域の比較 - 股関節可動域の機能予測とADL指導 -	中木哲也	リハビリテーションセンター
Acta Physiologica (2007. 1)	Hepatic pre-sinusoidal vessels contract in anaphylactic hypotension in rabbits.	芝本利重	生理機能制御学
American Journal of Physiology Heart Circulatory Physiology (2007. 1)	Effects of pacemaker currents on creation and modulation of human ventricular pacemaker: theoretical study with application to biological pacemaker engineering.	倉田康孝	生理機能制御学
Biochemical and biophysical research communications (2006. 12)	Delayed onset of beating and decreased expression of T-type Ca ²⁺ channel in mouse ES cell-derived cardiocytes carrying human chromosome 21.	倉田康孝	生理機能制御学
Clinical and experimental pharmacology & Hypertension Research (2006. 11)	NG-nitro-L-arginine methyl ester potentiates anaphylactic venoconstriction in rat perfused livers.	芝本利重	生理機能制御学
Journal of Cardiovascular	Inhibition of inward rectifier K ⁺ currents by angiotensin II in rat atrial myocytes: lack of effects in cells from spontaneously hypertensive rats.	倉田康孝	生理機能制御学
Prostaglandins & other lipid mediators (2006.	Effects of Hct on L-NAME-induced potentiation of anaphylactic presinusoidal constriction in perfused rat livers.	芝本利重	生理機能制御学
Shock (2006. 7)	Effects of platelet-activating factor, thromboxane A2 and leukotriene D4 on isolated perfused rat liver.	芝本利重	生理機能制御学
Spine (2006.6)	Oxygen consumption, assessed with the oxygen absorption spectrophotometer, decreases independently of venoconstriction during hepatic anaphylaxis in perfused rat liver.	芝本利重	生理機能制御学
	Expression of ADAMTS-4 (aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation	上田善道	病理病態学

雑誌名(発行年月)	題 名	発表者名 (著者名)	所属部門
Journal of Neuroimmunology (2006.6)	Elevation of IL-12 p40 and its antibody in myasthenia gravis with thymoma	佐藤勝明	病理病態学
Journal of Virology (2006. 12)	Theiler's Murine Encephalomyelitis Virus (TMEV) Leader (L) Protein Amino Acid Residue 57 Regulates Subgroup-Specific Virus Growth on BHK-21	Takano-Maruyama M	生体感染防御学
Journal of Neuroinflammation (2006. 8)	Leader (L) and L* proteins of Theiler's murine encephalomyelitis virus (TMEV) and their regulation of the virus' biological activities	Takano-Maruyama M	生体感染防御学
Antiviral Chemistry & Chemotherapy (2006.4)	Inhibition of ganciclovir-resistant human cytomegalovirus replication by Kampo (Japanese herbal medicine)	山口宣夫	代替基礎医学
体育の科学 (2006.12)	温泉と免疫	山口宣夫	代替基礎医学
Medical Technology (2006.8)	血液ガス測定装置の精度保証のあり方	福永壽晴	病態診断医学
Life Sciences. (2006.4)	Low-density lipoprotein receptor-related protein 5 variant A1330V is a determinant of blood pressure in Japanese males	Y.Morikawa	健康増進予防医学部門
Biological Trace Element (2006.8)	Smoking does not influence cadmium concentrations in blood and urine in relatively high levels of environmental cadmium areas in Japan	H.Nakagawa	健康増進予防医学部門
Tohoku J. Exp. Med (2006.6)	G-protein β 3 subunit gene variant is unlikely to have a significant influence on serum uric acid level in Japanese workers	K.Miura	健康増進予防医学部門
Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol.(2006.7)	Dietary factors related to higher plasma fibrinogen levels of Japanese-Americans in Hawaii compared with Japanese in Japan	K.Miura	健康増進予防医学部門
Occup Environ Med (2006.8)	Causes of death and renal tubular dysfunction in residents exposed to cadmium in the environment	M.Nishijo	健康増進予防医学部門
Journal of Applied Toxicology.(2006.8)	Estimation of benchmark dose for renal dysfunction in a cadmium non-polluted area in Japan	H.Nakagawa	健康増進予防医学部門
Biometals (2006.10)	Tissue cadmium (Cd) concentrations of people living in a Cd polluted area, Japan	M.Nishijo	健康増進予防医学部門
Annals of Human Genetics.(2006.11)	G-protein β 3 subunit variant C825T is a risk factor for hypertension in Japanese females -a prospective cohort study over 5 years	H.Nakagawa	健康増進予防医学部門
Life Sciences. (2006.4)	Low-density lipoprotein receptor-related protein 5 variant A1330V is a determinant of blood pressure in Japanese males	H.Nakagawa	ハイトクリサーチセンター
Biological Trace Element (2006.8)	Smoking does not influence cadmium concentrations in blood and urine in relatively high levels of environmental cadmium areas in Japan	M.Nishijo	ハイトクリサーチセンター
Tohoku J. Exp. Med (2006.6)	G-protein β 3 subunit gene variant is unlikely to have a significant influence on serum uric acid level in Japanese workers	H.Nakagawa	ハイトクリサーチセンター
Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol.(2006.7)	Dietary factors related to higher plasma fibrinogen levels of Japanese-Americans in Hawaii compared with Japanese in Japan	H.Nakagawa	ハイトクリサーチセンター
Occup Environ Med (2006.8)	Causes of death and renal tubular dysfunction in residents exposed to cadmium in the environment	M.Nishijo	ハイトクリサーチセンター
Journal of Applied Toxicology.(2006.8)	Estimation of benchmark dose for renal dysfunction in a cadmium non-polluted area in Japan	M.Nishijo	ハイトクリサーチセンター
Biometals (2006.10)	Tissue cadmium (Cd) concentrations of people living in a Cd polluted area, Japan	M.Nishijo	ハイトクリサーチセンター
Annals of Human Genetics.(2006.11)	G-protein β 3 subunit variant C825T is a risk factor for hypertension in Japanese females -a prospective cohort study over 5 years	H.Nakagawa	ハイトクリサーチセンター
Journal of Molecular and Cellular Cardiology(2006.6)	Specific removal of β 1-adrenoceptor autoantibodies by immunoabsorption in rabbits with autoimmune cardiomyopathy improved cardiac structure and function.	Matsui S	先進医療研究部門
International Journal of Cardiology (2006.7)	Pathological importance of anti-G-protein coupled receptor autoantibodies.	Matsui S	先進医療研究部門
Blood (2006.8)	Detection of serum hepcidin in renal failure and inflammation by using ProteinChip System.	Tomosugi N	先進医療研究部門
Am J Nephrol (2006.7)	Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and pmma) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS.	Tomosugi N	先進医療研究部門
Clinical & experimental metastasis (2006.9)	RhoGDI β lacking the N-terminal regulatory domain suppresses metastasis by promoting anoikis in v-src-transformed cells	太田隆英	分子腫瘍学研究部門
Cell biology international (2006.9)	Activation of Rac1 by Rho-guanine nucleotide dissociation inhibitor-beta with defective isoprenyl-binding pocket.	太田隆英	分子腫瘍学研究部門
Skeletal Radiology (2006.4)	MRI features of extraskeletal myxoid chondrosarcoma	T. Nojima	病院病理部

小計 29件

計 123件

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 高島茂樹
管理担当者氏名	病院長室長 中農理博

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		管理課 薬剤部 看護部 中央放射線部 医療情報部 医事課	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号（7桁）を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	職員課	/
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	職員課	
	閲覧実績	管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部	
体制確保の状況 規則第9条の23及び第11条各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策課	/
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策課	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	(診療録関係) 医療情報部長	堀 有 行
	(管理・運営関係) 病院長 室長	中 農 理 博
閲覧担当者氏名	(診療録関係) 医療情報課長	山 下 和 夫
	(管理・運営関係) 管理課長	疋 田 勉
閲覧の求めに応じる場所	カルテ閲覧室 ・ 管理課事務室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.4%	算定期間	平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日
算 出 根 拠	A: 紹介患者の数		8,317 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,024 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,764 人
	D: 初診の患者の数		25,274 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 1 条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(4名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専任（４）名 兼任（７）名</p> <p>・活動のおもな内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会及び事故調査委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全対策委員会の庶務に関すること。 ・医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 ・患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 ・事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 ・医療安全に係る連絡調整に関すること。 ・診療情報提供に関すること。 ・医療安全相談に関すること。 ・その他医療安全対策の推進に関すること。（病院全職員を対象とするもの、特定の部署の職員を対象とするもの等の職員研修の計画・立案・実施等） ・兼任リスクマネージャ（平成１８年１０月、臨床検査技師１名、放射線技師１名、薬剤師１名、看護師２名を発令）は専従リスクマネージャを補佐し、医療事故・インシデント防止のため医療安全の推進と問題解決のため検討会を毎週実施する。 	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は、医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの３部構成をとっている。</p> <p>指針では、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。</p> <p>安全管理体制に関する関係規程では、リスクマネジメント規程、医療事故調査委員会規程、医療安全対策委員会規程、医療安全対策小委員会運営要領、医療安全対策部組織運営内規、診療情報提供に関する規程、患者相談業務に関する事務取扱要領を収載している。それぞれの規程には規程制定の趣旨・目的、委員の構成、審議事項等を定めている。</p>	

医療事故防止に関する共通マニュアルは、患者誤認防止、伝達エラー、転倒・転落防止について、身体抑制、毒薬・ハイリスク薬の管理、抗がん剤治療のプロトコール、薬の自己管理、機器管理、電子カルテの利用等について記載し、共通の事故防止マニュアルとしている。

一方、部門マニュアルでは、薬剤部、内視鏡センター、救急医療センター、中央手術部、血液センター、中央臨床検査部、栄養部、看護部等、それぞれの部署の安全対策マニュアルを記載している。

薬剤部のマニュアルは、病棟・外来部門薬品安全管理マニュアル、麻薬院内取り扱いマニュアル、向精神薬取り扱い要領等の構成となっている。中央手術部では、ガーゼカウントマニュアル、機器・針カウントマニュアル、検体取り扱いフローチャート、麻薬の確認等の構成となっている。血液センターでは、輸血医療安全対策マニュアル、輸血取扱手順、輸血療法実施に対する安全対策チェック項目の構成となっている。中央臨床検査部おマニュアルは、採血マニュアル対応手順、生理機能検査室での患者急変時対応手順の構成となっている。看護部のマニュアルは、注射、輸血、輸液、与薬、酸素吸入、チューブ類、検査等の構成で、それぞれの項目・手技について、実践的な手順や注意事項を詳細に記載したものとなっている。

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

年 24 回

活動の主な内容

- * 医療安全対策小委員会：医療安全対策委員長宛提出されたインシデントレポートを、重要な事例については医療安全管理者が事実確認等の詳細な調査を行うと共に分析・検討し、委員会に検討事例として提出する。提出された事例はインシデントに至る状況、要因、影響、改善について小委員会として徹底的に分析・検討し、医療事故防止対策の小委員会案を医療安全対策委員会に提案する。
- * 医療安全対策委員会：小委員会からのインシデント事例の分析・検討結果の報告・発表の場であり、各部門リスクマネージャである医療安全対策委員に医療事故防止策として周知するとともに、各部門所属者の情報の共有化と、事故防止の認識を深めてもらうよう周知徹底を要請する。また、防止策を委員会として実施する場合や、病院として組織的に改善策を実行する場合には、関係部署に改善の要望を出す。さらに、インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び各部門に共通するような代表事例等の資料を作成し併せて周知している。周知方法として、電子カルテ上に委員会の議事録を閲覧できるようにすると共に、印刷した資料・議事録を各委員及び全リスクマネージャに配付し、所属職員全員が読むようにし、読んだ者はサインするようにした。
- * 医療安全対策委員会決定の改善策及び事故防止策の実現：委員会で決定した改善策等については、電子カルテシステムの改善であれば担当部署に改善を依頼し、また、委員会として対応すべきものについては調査のうえ、改善策及び防止策を作成し、それを周知徹底する。
- * 医療安全対策委員会から、各部署へインシデント分析等その部署における医療安全管理についての検討を要請し、その部署特有の問題或いは既に実施している安全管理上有効な取り決めについて、医療安全対策委員会で報告させ、全体として情報を共有する。このインシデント分析は医師・看護師・薬剤師等関係者が同一のテーマで話し合うことにより、チーム医療としてのコミュニケーションをより密接なものとする有効な機会となっている。

*医療安全院内ラウンドの実施：平成18年2月から医療安全院内ラウンドを実施。原則月2回（平成19年度から月1回）、1回に2箇所を対象として実施する。実施に際しては、医療安全管理者が中心となり、医師、看護師、医療技術者、事務職員の各部門リスクマネージャが毎回交代でラウンドを実施し、改善事項があればそれを通知した後、次の院内ラウンドで改善状態を検証する。

*医療安全対策委員会として各科・各部署の医療安全に対する職員の認識等の実態を把握するため、必要に応じアンケート調査を実施して、分析・検討した結果を委員会で公表し改善策等の指導や今後の医療安全対策の進め方を検討している。

*病院部科長会及び病院連絡会など院内で定期的に行われている各種会議でも、インシデント情報の収集と分析結果の資料配付と報告がなされ、医療事故再発防止策の一環として情報を共有するとともに、各部門内での周知・徹底に努めている。

*委員会の開催日及び協議事項は別紙のとおり。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 16 回

・研修の主な内容

第1回 安全管理体制確保のための職員研修会

日時：平成18年7月12日

テーマ：医療安全対策の基本 ー医療安全に対するプロの対応、組織の取り組みー

講師：工藤 純

(株)損保ジャパン・リスクマネジメント

医療リスクコンサルティング事業部 主任コンサルタント

出席者：医療安全対策委員会委員（部門リスクマネージャ）、看護リスクマネージャ、医師、看護師、医療技術者、事務職員、他病院者等 約 1,280名

研修内容：医療事故の現状として、判決の事例紹介、医療過誤における医療従事者の法的責任（刑事責任、民事責任、行政責任）の解説、医療事故事例の紹介から苦情・トラブルの対応、事故発生時の初期対応についての解説。診療記録は最も重要な記録であり、証拠であるので記録のとり方の要点を解説。医療安全の取り組みの意義と目的の解説を通して事故の防止方法の解説と医療の質の改善についての講演であった。

第2回 安全管理体制確保のための職員研修会

日時：平成19年2月22日

テーマ：1. 医療安全の現状と平成18年度インシデント分析結果

2. DVD上映 ーみんなで考えよう医療事故防止対策ー

講師：松田 二美（金沢医科大学病院 医療安全対策部 医療安全管理者）

出席者：医療安全対策委員会委員（部門リスクマネージャ）、看護リスクマネージャ、医師、看護師、医療技術者、事務職員、他病院者等 約 1,170名

研修内容：医療安全の現状と平成18年度インシデント分析結果では、医療安全を取り巻く法的な動向、医療事故の責任、医療事故を予防するための職場環境の整備、といった一般論から、当院におけるインシデント情報の発生部署別、時間別、種別等についての報告とインシデント別の要因分析とインシデント防止対策が示された。また、DVDの上映は、文部科学省選定のもので、薬剤取り違い、針刺し、ポンプフリーフロー、栄養カテーテルの気管誤挿入について、それぞれよく実施される医療行為における事故事例を、他人事ではなく視覚的に感じ取る事ができるものであった。

院内感染防止のための教育講演会

日 時：平成18年10月3日

テーマ：院内感染アウトブレイクへの対応について ―感染疫学の解析を用いて―

講 師：高橋 孝（院内感染対策小委員会副委員長）

出席者：医師、看護師、医療技術者、事務職員、等 約 710名

研修内容：病院感染管理の実践として、知識の向上から意識の変容、行動の変容へとステップアップ。患者の満足度とスタッフの満足度で大切なものは医療スタッフとしてのプロ意識。感染対策として手洗い講習会等感染管理、職員教育の病院をあげての取り組みが不可欠である。更に、感染事例報告からアウトブレイクの対応の重要性、調査の準備及び注意点の説明があり、医療事故と病院感染の相違、事態収拾のための対応等についてのかいせつがあった。

当日はイントラネットのライブ中継を実施するとともに、当日参加できなかった職員のために、イントラネットを利用したライブ中継を配信した。また、安全管理体制確保のための職員研修会については、録画ビデオを上映するビデオ研修会を各2回にわたり実施し、それぞれ約400名、300名の参加者があり、さらに録画ビデオの貸し出しも行い、ビデオで研修を行った。

褥瘡対策講習会

日 時：平成19年3月16日

テーマ：難治性皮膚潰瘍に対する治療的工夫 ―褥瘡を中心に―

講 師：上出康二（和歌山労災病院皮膚科部長）

出席者：医師、看護師、医療技術者、事務、 153名

研修内容：褥瘡は単なる不可抗力の皮膚潰瘍ではなく、病院全体として取り組む全身疾患であり、医療現場の大きな問題となっている。医師、看護師、栄養士、薬剤師等からなるチーム医療が行われ、予防、治療対策が講じられているとの報告があった。糖尿病性壊疽などの難治性皮膚潰瘍症例の取り組みで、持続陰圧療法、分層植皮（田植え植皮術）、骨髄液移植法等の最先端医療をベッドサイドで行っているとのことであり、医療者側の防御態勢や洗浄水の飛散対策、ゴミの扱い等参考になる事が多い講演であった。

新入職員オリエンテーション

日 時：平成18年4月3日・4日

講 師：松本 忠美（副院長）

出席者：研修医、看護師、看護補助、医療技術者、 99名

研修内容：病院職員として熟知していなければならない病院の理念、病院全体の概要を始めとして、医療安全管理体制の指針・関係規程の基本的事項、及び院内防災設備について。また、過去の講演を収録したビデオを上映し、医療安全の重要性を認識してもらうよう安全管理に対する教育・研修を行った。

医療安全講習会

日 時：平成18年8月25日

講 師：松田 二美（医療安全管理者）、堂前 正秀（医療安全対策課長）

出席者：診療部（科）課長、医局長、技師長、看護師長、 106名

研修内容：医療安全管理体制の指針及びマニュアルの概要と改正点についての説明。

帰局員及び中途採用者研修会

日 時：平成18年4月11日

講 師：医療情報管理課 電子カルテ教育担当者
医療安全対策課

出席者：医師、看護師 10名

研修内容：電子カルテの操作方法、及び医療安全研修会のビデオの上映。

帰局員及び中途採用者研修会

日 時：平成18年10月30日

講 師：松田 二美（医療安全管理者）、
出席者：医師、看護師 27名

研修内容：電子カルテの操作方法、及び医療安全管理体制の指針の解説。

実技トレーニング

日 時：平成18年6月21日

講 師：医療安全管理者及び看護師長3名、機器納入業者

出席者：研修医 7名

研修内容：静脈注射の実技研修及び輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い方法と実技実習。

研修医教育研修会

日 時：平成18年10月18日

講 師：中川 淳（内分泌・代謝科 助教授）

出席者：研修医 9名

研修内容：生理活性物質としてのインスリンの解説とインスリン注射実施時の注意等について。

講 師：政氏藤玄（薬剤部 主任）

研修内容：麻薬・向精神薬の取り扱いについて。

医療安全研修会

日 時：平成18年10月18日

講 師：松田 二美（医療安全管理者）

出席者：研修医 5名

研修内容：医療安全管理体制の指針解説と当院における医療安全の取り組みについて。

新人看護師オリエンテーション

日 時：平成18年4月7日

講 師：松田 二美（医療安全管理者）

出席者：新人看護師 74名

研修内容：転倒・転落防止について。

看護師研修会

日 時：平成18年7月19日

講 師：機器納入業者

出席者：31名

研修内容：シリンジポンプの使用方法について。

看護師研修会

日 時：平成18年8月21日

講 師：政氏藤玄（薬剤部 主任）

出席者：141名

研修内容：麻薬・向精神薬の取り扱い及び管理方法について。

看護師研修会

日 時：平成18年9月29日

講 師：高橋 喜統（薬剤部 薬剤師）

出席者：176名

研修内容：静脈注射薬投与について、危険薬剤の管理方法、注射薬としての特徴等について。

看護師研修会

日 時：平成19年2月14日

講 師：中央臨床検査部 技師

出席者：60名

研修内容：検体の採取と取り扱いについて。

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備

(有)・無)

- ・医療事故が発生した場合には、それが重大なものであれば当事者から口頭で主治医・診療科長をとおして医療安全管理者に報告され、医療安全管理者が医療安全対策部長・診療部長である副院長、病院長へと報告する。その後速やかに主治医・当該部門リスクマネージャが、所定の医療事故報告書で事故の詳細を報告するシステムとなっている。
- ・事故調査委員会は、病院長を事故調査委員会委員長とし、副院長、医療安全管理者、看護部長、他13名で構成し、提出された事故報告書に基づき主治医・看護師長他関係者から事情聴取を行い、事故原因の調査・分析をし、改善策の立案・指導をとおして医療安全体制の確保を目指している。
- ・インシデントは、当事者から部門リスクマネージャをとし医療安全対策部（医療安全管理者）へ提出される。提出されたインシデントレポートは、事例によっては医療安全管理者が事実確認等の詳細な調査を行うと共に独自に分析・検討し現場へ改善策等の指導を行うとともに、分析結果を現場へ通知し、情報を共有して事故の発生防止に努める。
- ・診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を行い、改善策・対応策等を策定する。その改善策等が部署内で実行可能なものであれば速やかに実施すると共に、医療安全対策委員会に報告する。
- ・医療安全対策小委員会は、内科系・外科系・小児科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の14名で構成され、医療安全管理者及び事務局から提出された当該部署に特有の事例を含め、各部門に共通するような代表事例について事例検討を行う。事例検討では、インシデントに至る状況、要因、影響、改善等について、医師・看護師等それぞれの職種の目で見た意見を出し合い、小委員会としても徹底的に分析・検討し、医療事故防止対策を検

討する。また、その結果は医療安全対策委員会に検討事例、改善策として報告・提案するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。

- ・医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャ（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）67名で構成され、インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果、改善策をそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。また、事例によっては委員会の指示で実地調査並びにフォローアップ監査を行うこととなっている。
- ・当該診療科が検討した改善策や医療事故調査委員会が指導した改善策が遵守されているか、医療安全管理者が現場で確認し、リスクマネージャに報告させると共に、院内ラウンドにおいても確認している。

・その他の改善のための方策の主な内容

安全対策委員会及び事故調査委員会で策定・指導した改善策

- ・持参薬投与間違い防止について
患者の持参薬は病棟薬剤師が内容を確認する。
- ・点滴ライン接続切り替え間違い防止について
輸液ポンプ使用時の注意書き（輸液ポンプ用の輸液セットを使用すること）を輸液ポンプに貼付した。
- ・抗癌剤の血管外漏出防止について
輸液ポンプのアラームセンサーの感度を上げる。危険な薬剤の投与については輸液ポンプを使用せず、自然滴下で行う。
- ・口頭による伝達エラー防止について
医師は自分が言ったことが正しく伝わっているか、復唱・確認し、これを徹底すること。
- ・I V Hカテーテル挿入時の気胸合併によるトラブル防止について
中心静脈穿刺に関する院内統一の「説明・同意書」を使用して十分説明する。
- ・体内の異物残存防止について
器械を使用した場合には使用後の器械が壊れていないか確認する（手術部の安全マニュアルに追加した）
- ・坐浴用20%ヒビテングルコネート使用量の間違い防止について
実際に使用する容器とは違った容器を使用して説明したために起こったもので、患者に対する説明は、実際に使用する物品を使用して説明する。
- ・薬剤の持ち運ぶ際の紛失防止について
薬剤を持ち運ぶ際には専用のトレイを使用して持ち運ぶ。